

平成22年度 国際交通安全学会  
研究調査報告会ならびに  
学会賞贈呈式

平成23年4月15日(金)  
午後1時00分  
経団連会館・ホール (2F)



財団法人 国際交通安全学会

## ごあいさつ

財団法人 国際交通安全学会  
会 長 小 口 泰 平

春暖の候、各位におかれましては益々ご清栄の段、心よりお慶び申し上げます。また、日頃から当学会の活動に格段のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

高質な交通と文化は、産業活動の発展に寄与するとともに生活の便利さと豊かさを支え、急速に進む情報化社会でも重要な役割を果たしています。とりわけ自動車交通の発展は、公共的・私的なモビリティの質的・量的な拡大をもたらしています。しかし、一方では交通事故、環境汚染、資源消費など多くの深刻な問題を抱え、更には、高齢化や都市・地方の再生といった社会的な問題も喫緊の課題となり、持続可能な優れたモビリティ社会実現に向けたグランドデザインの理念構築、実践的問題解決のための調査研究および提案、継続的な教育支援活動などが求められています。

国際交通安全学会は、交通とその安全・安心のための学際的かつ国際的な視点からの取り組みが活動の指針であり責務と考え、活動を進めてまいりました。今後とも、関係各位の変わらぬご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます次第です。

さて、この度、当学会定例の研究調査報告会、ならびに学会賞贈呈式を下記のように催すこととなり、皆様に御案内申し上げます。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせの上ご出席を賜れば幸甚に存じます。

### 記

日時：平成23年4月15日(金) 午後1時00分

会場：経団連会館・ホール (2F)

(東京都千代田区大手町1-3-2 TEL: 03-6741-0222)

内容：研究調査報告会は、平成22年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から4テーマについて御報告申し上げます。

また、国際交通安全学会賞は、交通と安全に関して、多大の貢献をした業績等を顕彰させていただくもので、今回は32回目となります。

お願い：お手数ではございますが、同封のFAX用紙にて、御出欠を4月8日(金)まで(必着)にお知らせ下さい。

# 平成22年度 研究調査報告会・学会賞贈呈式 スケジュール

- 12:30 受付
- 13:00 開会の挨拶 会長 小口 泰平
- 13:05 研究調査部会企画委員会委員長 久保田 尚
- 13:10 超高齢化都市に要求される移動の質とスローモビリティに関する研究 土井 健司
- 13:55 子供から高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究 蓮花 一己
- 14:40 コーヒーブレイク
- 15:00 安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究 中村 英樹
- 15:45 交通安全と交通取締りに関する基礎的研究 森本 章倫
- 16:30 休憩
- 16:50 学会賞贈呈式 挨拶 会長 小口 泰平  
褒賞助成部会企画委員会委員長 中村 英樹  
祝辞 警察庁長官 安藤 隆春  
内閣府大臣官房審議官 太田 裕之
- 受賞業績の紹介
- 17:55 閉会の挨拶 専務理事 石附 弘
- 18:00 引き続き、意見交換会を5Fパールルームにて行いますので、ご出席の皆様、ぜひお立ち寄り下さいますようお願い申し上げます。

# 平成22年度 研究調査報告会 報告テーマのプロフィール

## I. 超高齢都市に要求される移動の質とスローモビリティに関する研究

- PL. 土井 健司 (香川大学工学部教授)  
長谷川 孝明 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)  
太田 和博 (専修大学商学部教授)  
紀伊 雅敦 (香川大学工学部准教授)  
喜多 秀行 (神戸大学大学院工学研究科教授)  
小林 成基 (NPO 自転車活用推進研究会理事長)  
西田 純二 (社会システム総合研究所代表)  
林 良嗣 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)  
松村みち子 (タウンクリエイター)  
森田 朗 (東京大学法学部政治学研究科教授)  
横山 利夫 (本田技術研究所未来交通システム研究室室長)

超高齢社会における「移動の質」を高めるためには、スローモビリティへのニーズを先取りした移動手段、道路空間、制度の整備が急がれる。本研究では、移動の質に関する価値観変化を分析した後に、岐阜県美濃市と香川県高松市において二つの社会実験を実施した。

美濃市の実験では、超小型電気自動車や電動アシスト付自転車などのパーソナルな移動手段を含む5種のモードの提供によって、実質的な選択の幅が広がり、外出機会が増加すると共に自動車依存度が低下することを確認した。また、乗合交通手段とパーソナルな移動手段を相互補完させながら、コミュニティとモビリティの両立を図る、「コモビリティ」の考え方を示した。

高松市の実験では、まちなかで歩行者、自転車、超小型電気自動車、自動車の共存を図る走行実験を実施し、スローモビリティ・レーンの設置によって低速化が促がされ、車両間の共存性が高まることを示した。

## II. 子供から高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究

- PL. 蓮花 一己 (帝塚山大学心理福祉学部教授)  
岸田 孝弥 (中京大学心理学部教授)  
鈴木 美緒 (東京工業大学大学院総合理工学研究科助教)  
多田 昌裕 (ATR・知能ロボティクス研究所研究員)  
中西 盟 (本田技研工業安全運転普及本部主幹)  
舟渡 悦夫 (大同大学工学部教授)

- 宮崎 光明 (本田技研工業安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック主幹)  
 向井 希宏 (中京大学心理学部教授)  
 矢野 円郁 (中京大学心理学部助教)  
 山本 俊行 (名古屋大学エコトピア科学研究所教授)

日本の自転車の事故件数全体に対する構成率は欧米よりも高いが、自転車の利用実態や利用者の心理行動特性の研究はきわめて少ない。

本研究では、平成21年度に、1) 自転車事故分析、2) 自転車利用者の行動観察調査、3) ジャイロセンサによる左右の確認行動分析、4) 中学・高校・大学生利用者への意識調査を実施し、事故率の高い中学生を中心に、交差点での不停止、並進などの違反行為の常習化や確認不足ならびに遊び行動などのリスク要因を把握し、事故を誘発するメカニズムを検証した。

今年度は、参加者の特性を考慮して、参加意欲が高まり、行動変容に結びつくような「動機づけ」を重視した実践教育を提案した。中学生への教育指導プログラムとして、1) 行動映像を活用した集団式視聴覚教育、2) 自転車シミュレータを活用した行動訓練、3) ジャイロセンサによる技能コンテスト、4) 生徒の自主的な交通安全活動を実施した。さらに、高齢者に関して、奈良県での行動実験を実施し、免許保有群と非保有群の比較を行った。

### Ⅲ. 安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究

- PL. 中村 英樹 (名古屋大学大学院工学研究科教授)  
 大口 敬 (首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授)  
 尾崎 晴男 (東洋大学総合情報学部教授)  
 竹林 秀基 (国土交通省道路局環境安全課課長補佐)  
 淡中 泰雄 (国土交通省道路局企画課課長補佐)  
 浜岡 秀勝 (秋田大学工学資源学部准教授)  
 宗広 一徳 (独) 土木研究所東地土木研究所主任研究員)  
 森田 綽之 (日本大学総合科学研究所教授)  
 米山 喜之 (関長大社会計画事業本部主査)  
 岩川 慎悟 (名古屋大学大学院博士前期課程)

平面交差点では出会い頭や右折対直進などの交通事故が後を絶たない。信号機の設置だけでは根本的な解決策とならない場合も多く、また交通量の少ない平面交差点での信号機の設置は、遅れや環境負荷をもたらす。このような問題点に対して、欧米諸国では近年ラウンドアバウトを積極的に導入し、安全で低コスト・低環境負荷(エコ)な平面交差点を実現している。しかし、日本ではラウンドアバウトに関する認知度が低いことや説得力の

ある実データの蓄積不足から、実用化へのハードルは依然高い。そこで本研究では、日本での実用展開に向けて、行政機関と連携して実道実験を行い、これより様々な実データを収集することで、上記の障害を順次克服し、本格導入のための環境を整えることを目的とする。

今年度は、昨年度実施した試験場での模擬ラウンドアバウト設置によるデータの分析結果等の成果を踏まえ、飯田市吾妻町交差点において、地元自治体との協働により実道社会実験を実現した。本実験を通して、提案した改良について地元住民から多くの肯定的評価を得ることができたとともに、日本の実道におけるラウンドアバウトの安全性・円滑性に関する性能を実証することができた。

#### IV. 交通安全と交通取締りに関する基礎的研究

PL. 森本 章倫 (宇都宮大学大学院工学研究科准教授)

今井 猛嘉 (法政大学法科大学院教授)

加藤 一誠 (日本大学経済学部教授)

松村 良之 (千葉大学法経学部教授)

浜岡 秀勝 (秋田大学工学資源学部准教授)

西田 泰 (科学警察研究所交通科学部部長)

オブザーバー

中村 振一郎 (警察庁交通局交通企画課課長補佐)

中島 淳 (警察庁交通局交通指導課課長補佐)

太田 広美 (警察庁交通局交通企画課係長)

道路交通法違反に対する対策として交通取締りが実施され、交通事故防止に大きな成果を挙げている。しかし、依然として交通ルールを守らないドライバーは後を絶たず、安全な交通社会を形成するためには、交通ルールを遵守する環境整備に加えて、交通取締りによる抑止効果についても、十分に把握することが重要である。

本研究では、交通取締りと交通事故の関連性について、統計データをもとに科学的な検討を行った。まず、国内外の既往研究調査から、一定レベルの交通取締りの実施が、交通事故減少に大きな効果があることがわかった。次に交通事故と交通取締りの統計的な分析から、その両者の関係に地域差があることが示唆した。また、特定地域での実験から、走行速度の低減効果や地区別に効果の違いがあることを示した。今後はこれらの成果をもとに、交通事故減少に向けた具体的な施策検討が必要である。

第32回  
(平成22年度)

国際交通安全学会賞贈呈式  
式次第

開 会

挨拶 会長 小 口 泰 平

選考経過報告 褒賞助成部企画委員会委員長 中 村 英 樹

学会賞贈呈

業績部門

◇能登空港利用促進協議会・能登空港利用促進同盟会 殿  
「地域の核としての能登空港」

◇札幌市 殿

「都心幹線街路における歴史的親水緑地空間の復元  
整備プロジェクト～札幌市創成川通アンダーパス  
連続化事業～」

著作部門

◇中村 良夫 殿 (東京工業大学名誉教授)  
「都市をつくる風景-「場所」と「身体」をつなぐもの」

論文部門

◇南部 繁樹 殿 (株)トラフィックプラス代表取締役)  
吉田 傑 殿 (株)本田技術研究所主任研究員)  
赤羽 弘和 殿 (千葉工業大学工学部教授)  
「プローブデータの分析に基づく救急車への緊急走行支援方策の検討」

祝 辞

警察庁長官 安 藤 隆 春

内閣府大臣官房審議官 太 田 裕 之

謝 辞

受賞業績の紹介

閉 会

## 経団連会館案内図



(注) お荷物は2階のクロークにお預け下さい。



報告会・贈呈式についてお問い合わせは下記へご連絡下さい。

財団法人 国際交通安全学会

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20

TEL 03-3273-7884

E-mail: mail@iatss.or.jp

URL: www.iatss.or.jp

事務局 { 研究報告会：柿沼、佐伯、清野  
 学会賞贈呈式：鈴木、今泉、清野